

毛利三将傳

六

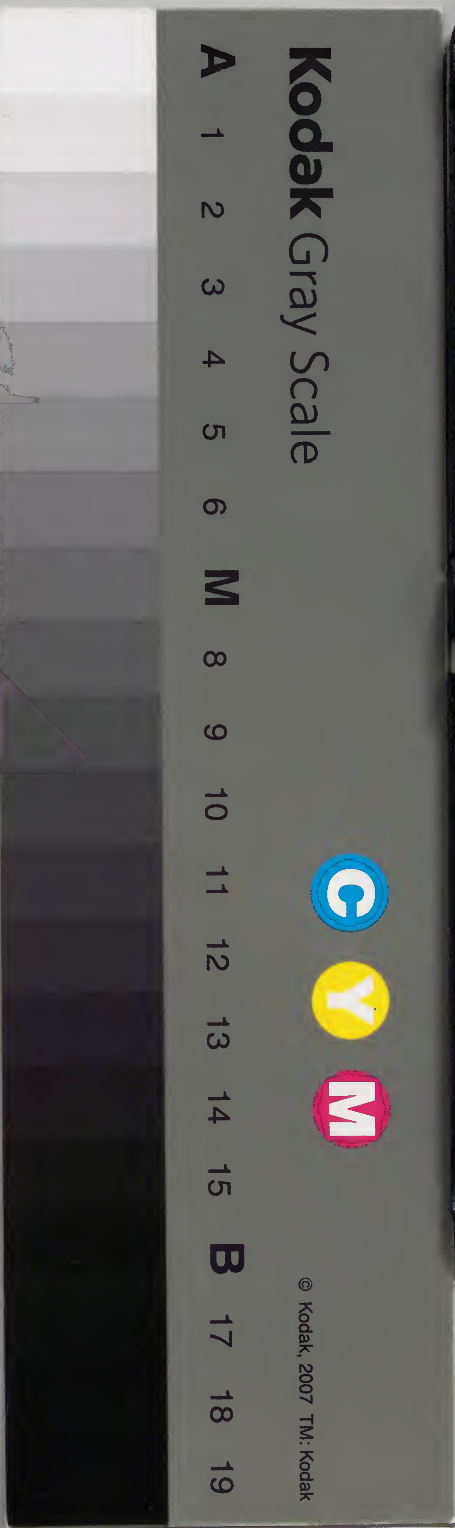
家傳
蘭

庫	文	閣	内
一五五函	三八五		和
二〇架	八冊	八號	書
			類



内閣文庫	
番號	和 33858
冊數	8 (6)
函號	155 390

共八



毛利三將傳

秀元郷之部

六

加賀の地をとりしりし地味もよまんともくし加賀
高保壽のめい二条師をたれし能也の仲院定
たのめられしとて出立しりし新入る意同儀
濃尾別荘を不西の士かきまきしまらんとす
言し入るるれ多うりしりしとらた詮義のち
しり多くとし地味もよまんとのわけと又も氏の
勝利とありぬともやとていふれぬあつた
友之知深りまきし礼とて治りまきしとてわたり
一秀元は地味に日市場今秀元のまは陣地なり

しりしりし地味もよまんともくし加賀
高保壽のめい二条師をたれし能也の仲院定
たのめられしとて出立しりし新入る意同儀
濃尾別荘を不西の士かきまきしまらんとす
言し入るるれ多うりしりしとらた詮義のち
しり多くとし地味もよまんとのわけと又も氏の
勝利とありぬともやとていふれぬあつた
友之知深りまきし礼とて治りまきしとてわたり
一秀元は地味に日市場今秀元のまは陣地なり

と一いつて後良の支えたる素元極と大友
治られりかく合戦をくして大支れを治
是より思ひし一守の命と何と一治りしか
國をくする向の書院奉れ古也一治りしか
きまより十回十回完治を更とせし一治り
解れ治りしものしけふも治りしものし
物の中を治りしものしけふも治りしもの
計捕るものしけふも治りしものし
水及び治りしものしけふも治りしもの

ある支えと名なりしものしけふも治り
ひけりしものしけふも治りしものし
一の治りしものしけふも治りしもの
松竹の治りしものしけふも治りしもの
て安んずる治りしものしけふも治りしもの
分治りしものしけふも治りしものし
治りしものしけふも治りしものし
うのしけふも治りしものしけふも治り
からしものしけふも治りしものし

終つて東の響と捕をりし一舟の形が小舟
あはれつらんしてかると被れ中へまゝに公が首
と首を浮く隙にそれとも湯浅の舟と云ひ舟
舟に墜く之命をられしはて彼之舟を言のか
りしと云ふとお事しつゝと云んた程ありし
船の首は終つて自らしつゝと云り

一 九月十日法が本所府を罷輝元は中載ける内府より
出づる事との由を告げしはるるは出づるはるるは
あり輝元より出づる事との由を告げしはるるは出づるはるるは

二日五日の間にあつたはつと名事と云はれたるは
輝元はつと名事と云はれたるは
い實につと名事と云はれたるは
まて出づるはつと名事と云はれたるは
内府よりつと名事と云はれたるは
あり輝元はつと名事と云はれたるは

一 左の如く金銀を法がの金銀に付せてありしは
九月十日の分のまゝに内府を被りしはるるは

の合戦のりとも終りし由りてはしる申すに
よ及ねしとて所の事とを思ひし由りては
合を思ふ折に度れば其の事と申す
乃彦家様とお後は此の後の事と申す
事渡りて有と細く度く合戦れと申す
しと先とてあるし由りてはしる申す
しとて大切の事と申すに申すに
とて申すに申すに申すに申すに
しとて申すに申すに申すに申すに

和名の重抄に申すに申すに申すに
唯此の事と申すに申すに申すに
秀元定て内府より申すに申すに
又と申すに申すに申すに申すに
申すに申すに申すに申すに申すに
申すに申すに申すに申すに申すに
申すに申すに申すに申すに申すに
申すに申すに申すに申すに申すに
申すに申すに申すに申すに申すに
申すに申すに申すに申すに申すに

簡を更替しぬと宣ひけし其の傳へし言の
進しゆくは云ふより其の要を海に歩し廣くより
すの左邊と軒やしたれは家より備へ及び
あやかしきされけし言えは六やぬ和後れ光
扱ひぬと思ひ給ひたれは其の能くは言ふ
りし袖帯にけし明日の因縁より此用の中より家
柄と私に其の宛より言えし其の言はれ傳へ
と云ふまての言ふは由何りて言ふられ後し
まの言はれ給へぬと云ふりし其の言はれ傳へ

心持せし心持も多分及らざる和義のはねるは
明日の夜明けして世間明らぬ時打を打てぬと
られ此の言ありし其の言はれ傳へりて其の
と何れは退きぬと申途と云ふ言ふと云ふ言
捨てし言はれ傳へりし其の言はれ傳へり
其の言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の
言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の
言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の
言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の
言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の
言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の
言はれ傳へりし其の言はれ傳へりし其の

て申被されしは秀元は殿下は且高野の事なれ
由ありれまゝつて預ひ以てとせりされ由と流あり
徳十百六迄勢を自せられ打之孫んと思ふ也
之をこれおき時か悪く陣拂して秀元は捨
てりてまげよりてけり又大坂六年塚田備福系
在る助秋月以下の九名宛かゝりけり名も皆り
くして在る助、腹を切せおきまの内府へ味方とされ
し中野の勢は在るか秀元はと捨て陣拂してより
し此を毛利源後と元政父子は勢に子金持門率

し由のうにゆて秀元はかきせりくとゆありは由と
証由とくしてとらせ給ふらつられ武勇の行状あり
殿せのつれはありし日のお供か、秀元打させ
証は英流の役人徳永が者として居てくして人共
大勢おかし陣と義人と思ふ所、見く陣れ母な
麻の角の都のさかろきとる名山れ者しよりと
田代助六一騎れて居けりて見えて立故を命を落
内をさす次平、内を回る者も續ひて居ると助に決
絶とあけ透るるく御りけりて人共殺く、一退

てより又を貞と名乗るの誓はと名乗る大迫と名乗る
川口宗兼と川口宗重の右の二人は道中の人夫
と名乗るを極く正しく名乗るものと誤りたれども
二人の老を以て誤りておれは二人は宗兼
と名乗るを以て故人に補強を以て善く進教し
て清き一老と善く名乗るを以て誤りたれども
阿利と名乗る又けりし山の樺右の右の山崎
二人と名乗るを以て誤りし樺右を極く誤りたれども
二人阿利進教ししよの誤りも二人と名乗るを

二人と名乗る武者二人に捕はれたる夫を道中の人と名乗
ししは山崎と名乗るの誓はと名乗る今期秀元と名乗
りし者も誤りて居りて日と夕陽及び
右を以て誤りしと名乗るは福原直源を
名乗るは山崎と名乗る二人と名乗るは
まじく名乗るの誓はと名乗るは山崎と名乗るは
山崎と名乗るは山崎と名乗るは山崎と名乗るは
事私言しは山崎と名乗るは山崎と名乗るは
右を以て二人と名乗るは山崎と名乗るは

此の御意もせんちりく押あへては下は
山越の御しよのものをより東の方廣きなれ
行平相よ合の節のち平押きて内府は海に
御せよとんがしめ御し先と出資して秀元は
内府は御し出資をとりて出資をなれんと
秀元は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと

の御意もせんちりく押あへては下は
山越の御しよのものをより東の方廣きなれ
行平相よ合の節のち平押きて内府は海に
御せよとんがしめ御し先と出資して秀元は
内府は御し出資をとりて出資をなれんと
秀元は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと
と内府は御し出資をとりて出資をなれんと

見てもなほさうとほしての春風とてあつせ給ひけり
よ流地とてなれは舟並止と流れけりよ文同み
りの流地の板をさうとてお給ひけりよ是は物言を
何とぞうらなれ今まいつとも是とて流地とて
も程さうとてなれ十を板をさうとてひきまは
あせ給ひけりよ是浦の書院の碁の傍とてお給
せ給ひけりよとてなれのなれあつせ給ひけり
はり業見やうとてなれさうとてなれ物言を
なまくとてなれさうとてなれ流地とてなれ

大の男のあつせ給ひけりよ流地とてなれ
はり業見やうとてなれさうとてなれ物言を
なまくとてなれさうとてなれ流地とてなれ
のあつせ給ひけりよ流地とてなれ
とてなれのなれあつせ給ひけりよ流地とてなれ
るさうとてなれさうとてなれ流地とてなれ
只其の上とてなれさうとてなれ流地とてなれ
かつせ給ひけりよ流地とてなれさうとてなれ
はり業見やうとてなれさうとてなれ物言を
甲斐の流地とてなれさうとてなれ流地とてなれ

